

完全なアリバイ

雑誌「旅」(日本交通公社発行)に連載
昭和二十六年五月号・昭和二十七年十一月号
飛行機・写真のトリックにケイ・ボーイ
などの風俗を織り込み、随所に登場す
る清張ゆかりの九州北部の風景描写は、
読者を紙上旅行へと誘った。



昭和三十七年(一九六二)二月初版

光文社 カッパノベルス

目次

- 心のふれあい小倉の思い出
インタビュー 小野昭治……………2
- ふるさと小倉シリーズ③
「時間の習俗展」……………4
- 展示品紹介……………5
- 探検! 清張記念館……………5
- みんなの広場……………6
- お知らせ……………7
- 北九州文学マップ……………7
- トピックス……………8

作品紹介

物語は門司・和布刈神事の描写で幕を開ける。相模湖畔で起こった殺人事件の容疑者、峰岡周一は神事を拝観していたと主張。フィルムにはつきりと撮り込まれた和布を刈る神官と、旅館の女中・文字。撮影の順序は供述の通りである。そして、相模湖から消えた女。容疑者によって周到に用意された「完全なアリバイ」に、三原警部補は疑念を抱く。

東京午後三時発の日航機に乗った男が、同じ夜に相模湖畔に立ち、翌早朝小倉の旅館に現れるには、どんなトリックを使ったのか。「点と線」でおなじみの時刻表を使った謎解きに、再度三原警部補と鳥飼刑事が挑む。



小野 昭治
(おの しょうじ)

早稲田大学商学部卒業。オーエンオー社長。
朝日ケイ・プラン専務取締役。北九州野球専務取締役。
松本清張記念館運営委員。昭和十五年四月小倉生まれ。

五郎おじさんから始まって：

清張先生は、僕のおやじの弟の小野五郎と友達だった。おじさんは昭和十五年の四月十九日に戦死して、その二日後の二十一日に僕が生まれた。うちは女の子ばかり四人続いていたんで、五郎おじさんが出征するとき、うちのおふくろに「今度は男の子やから」って楽しみにして出ていったんですよ。だから先生は僕を「五郎さん」の生まれ変わりや」とよく言っていましたよ。

インタビュアー

「清張を語る」

おじさんと清張先生はどうして知り合ったんでしょうか？

五郎おじさんがつくっていた草野球チームに清張先生も入っていたらしいんだ。二人は気が合っていたんだろね。こんなエピソードがあるよ。

お祭りの日に五郎おじさんと先生が父のサイドカー付きのハーレーダビッドソンに乗って出かけたらしいんだ。ところがバイクごと側溝に落ちてしまっって、先生の新調の浴衣が破れてしまった。「五郎おじさん、一緒について来てくれたな、うちのおふくろに謝ってくれた」。清張先生はそんな話をよくしてくれた。昭和八、九年頃、また先生が独身の時のことだろうね。おやじやおふくろとは、上京してからも手紙のやりとりをよくしていたね。

おふくろは五郎おじさんの小倉中学校の父兄会に、親代わりで行ってたから、おふくろから見れば、おじさんの友達の清張先生も弟みたいな感覚なんですか。

お母さんの悦子さんはどういう方ですか？

気が強いですよ(笑)。明治の女の気の強さというか、意志の強さというか。そのかわり、だいつと言ったら後に全然残らない。

うちのおふくろの姉妹は、全部お医者さんに嫁いでいて、いわゆる商売人のところに嫁に行っただけ、おふくろだけなんです。だから、かなり苦労はしてるんじゃないかな。生活が随分

違うからね。だけど気性の強さと行動力で、それを全然苦にもしなかった。

おふくろは、先生が賞をとったりすると、必ず何か送ってましたよ。清張先生の「作家生活四十周年」の時も、銀座の鳩居堂で祝儀袋を買って、筆を借りてその場で書いてるんですよ。でも中身を入れ忘れてた(笑)。先生からの礼状に「気持ちだけ受け取るけど……」って。だからまた後で送ってね。

お互いに遠慮のない間柄だったんですね。

それくらい気ぜわしいおふくろだつてことを先生の方もよくわかってた。

こんなこともあった。先生がテレビに出てるのを見て、おふくろが電話をかけて「表情が悪い」って言うんだよ。先生と話しているのを聞いてたら、同じ年なんだけど姉さんと弟が話しているみたいで、「もっとあこ引いて話さな」「(あこ)を引いて(こう)ですか」ってな具合でね(笑)。

お母様は清張先生のことをどのようにおっしゃってますか？

いつも「清張さんの爪の垢でも煎じて飲みなさい」って言う。つまり「努力しろ」っていうことなんだよね。そればかり。

お母様は、清張先生が努力している姿をよくご存じなんですね。

清張が
昭治さんの母・悦子さんに宛てた手紙



それは、おふくろが一番よく知っている。東京に出るのもかなり勧めますね。うちのおふくろは、ものすごく東京志向なんです。母の番上の姉が青山の英文科に行つた時、病気で亡くなったから、祖父に「東京には絶対やらん」って言われて、おふくろは行けなかつたんです。それでおふくろは子供全員を東京の学校に行かせた。先生にもいつも「東京行け」って言つてた。だから、先生はおふくろへの手紙には、「(東京に)来るんじやなかつた」って書いてるでしょう。

昭和三十一、二年頃ですね。「時々、東京なんか出て来ずに、小倉で平穩な生活をつづけていた方がよかつたなどと考えることもあります」とありますね。

生涯変わるごとのなかつた、小野家との心あたたまる交流。そこには「人間・松本清張」の姿がありました。子供のころから可愛がってもらつていたという

小野昭治さんに清張との思い出を語っていただきました。

小倉の思い出

聞き手・大西 政寛・篠原 礼
構成・篠原 礼
写 真・林 暁子

「時には自信を喪失して滅入った気持ちになったとき、力をつけて頂く心の支えとなつて下さるようお願い申し上げます」と書いてあります。素直な一面が見えますね。

先生は滅多にそういう弱気なことを言わない人でしょう。おやじやおふくろとはそういう間柄だったんでしょうね。

大衆食堂からやがて吉兆に

僕が東京の高校に行った頃、訪ねて行くと先生が書斎から降りてきて、よく、一緒に食事に行った。今考えると、外に息抜きに出る口実を作っていたということ、僕へのサービス精神もあつたんだろうね。うちはこういう食べ物の商売だから、食べることに経験を積まなきゃいけない。だから、いいところに連れて行ってくれたんだらう。だんだん行く店が変わっていったね。それだけ売れっ子の作家になっていくのを実感しましたよ。

初めはどういうお店なんですか？

昭和三十一年だから、いいレストランなんていうのはほとんどないんです。今の不一家の前身くらいかな。一番最初は、渋谷食堂、大衆食堂です。そこで食べて食べて食べて……(笑)。

先生がお金持つてなくて、時計を置いて帰ったことがあつた。子供心にも心配でね。「食べ過ぎたっけ、俺、悪かあ」って本当に思った。「ころが、先生はそういうところは無頓着というかな。年譜で調べたら、もうその頃には何本もベストセラー出しているから、お金を持ってないはずないんです。その後、コックドールという有名なフランス料理の店。しばらくして、四谷に石原裕次郎のステーキハウス、フランススが開店したら、すぐに連れて行ってくれた。それから、鉄板焼き、ホテルオークラかな。あとは、新宿に京王プラザができた時は、よく連れて行ってくれたね。そして最後は吉兆ですよ。僕みたいな若い者が普通いけないような店だからね。いろいろ経験させてくれたんだと思う。

お食事しながらどんな話をするんですか？

文学の話は一切しなかった。僕に文学の話をしてもしようがないから。僕は野球をしたから野球の話とかね。それから僕の友達とか、人の名前をよく聞いてたね。「こういう友達がおつてですね……」と言うと、「それは何ていう名前か？」って。どういう字を書くとかね。

作品の登場人物の参考にしたんでしょうか？

そうかな。あんまり気づかなかつたけど……。(笑)

「親孝行せい」といつも言われていた

親がわりのような清張先生ですが、叱られたことなどはありますか？

それは全然ない。仕事には厳しかったらしいけど、僕にはそれを微塵も出さなかった。仕事の話もしなかった。僕にはいつも「親孝行せい」って言うてたんですよ。

先生は政治家は嫌いだし、権力とのつき合いについていい話はない。正しいものは正しい、自分の眼で見ても、悪いものは悪いという判断をしてきた。だから、権威や権力で押さえつけようとするとものへの反発がものすごくあつた。

地元の熱意が伝わり、記念館誘致へ

先生がまたお元気な時に、北九州市で名譽市民の称号を贈るか、碑を建てるかという案があつたんですよ。それをおふくろを通じて伝えたら、「それは有り難いけど、お断りします」って言った後すぐに「およそ人間というものは、いわゆる棺の蓋を敲うまでは所業不足、記念碑などは生きている間は、辞退申上げたがよろしかろうということであります。(中略)とるに足らぬ小生のためにお世話いただいた

方々にとり返しのかぬ御迷惑をおかけしても、大事、切に御辞退申上げることいたしました」って手紙がきた。先生もあいつのことだから口で言つたつて、また勝手になんかすと思つたんじゃあないかな(笑)。だから生きていた間はだめだけど、亡くなられた後ならいいかなって思つて、記念館誘致の働きかけをしたんですよ。

小野さんは小倉との重要な接点だったんですね。

それも結果的に後でそうなつたという感じなんです。先生はいつも小倉のことを気にされていた。だから会うと、「あの人がどうされてますか？」とか、「あの辺はどう変わった？」とか、いろんなこと聞かれてたね。小倉に来たら必ず僕が運転手をして、いろいろな所を回つた。よく覚えてるんだよ。懐かしかったんだらうなあ。

だから小倉市民会館で講演会をした時に、著書一五〇〇冊にサインをお願いしたのも、喜んで引き受けてくれた。藤井館長から、「あの当時の仕事量を考えたら、大変なことをやってくれましたね」って言われたよ(笑)。

二〇〇〇年二月一日
オーエン・オーフーズ社長室にて

時間の習俗展

トリックと昭和三十年代 Key word . 1



「時間の習俗」が書かれた昭和三十六年から三十七年は、「国民所得倍増計画」が政策として推進され、電化製品の普及、レジャーブームの到来と、好景気に湧いた時代でした。作中でも当時の流行がさりげなく描かれています。三原警部補の家庭では、「この前やっ」と月賦がすんだばかりのテレビが据えられ、「ボーナスで三年前に買った」カメラなどの記述が時代を物語っています。また、アライバイ射の重要な鍵として、カメラのフィルムトリックが使われています。これは、カメラが好きで、写真集も出版している清張ならではのアイデアです。

Key word . 2 清張と俳句



清張は青年時代から俳句に親んでいました。初期の作品「菊枕」や「花衣」(後に「月光」と改題)では小倉ゆかりの俳人を採り上げ、また、俳句を織り込んだ作品も数多くあります。「時間の習俗」冒頭でも和布刈神事を詠んだ俳句を引用し、物語序章の期待感を高めています。また清張作の俳句も登場します。容疑者峰岡が都府楼址で詠んだ句、「天平の礎石にわが影の凍ており」なども現代俳句の秀作と言えるでしょう。

旅心・古代史への興味 Key word . 3



この作品には和布刈神事をはじめ、小倉・大吉旅館、太宰府都府楼址、水城、鐘崎と郷土になじみの深い地名が登場します。幼い頃から抱いていた旅への憧れ。その土地にまつわる記憶や古伝を旅路の風景として描くことにより、作品に生き生きとした命が与えられています。

この作品には「旅情ミステリー」という味わいのみならず、清張ならではのエッセンスがたくさん詰まっています。特に歴史への深い造詣は、後年、「清張通史」などの古代史シリーズに結実しています。ひとつの作品を読み解くことによって、作品世界と作家への理解は深まり、読書の楽しみは更に倍増することでしょう。

(学芸担当 篠原 礼)



松本清張のふるさと、北九州・小倉を主題にした企画展も三回目となりました。今回は初期長篇ミステリーの秀作、「時間の習俗」を採り上げています。この作品を読み解くいくつかのキーワードを紹介しましょう。

松本清張生誕90周年記念 風間完講演会

松本清張の誕生日に当たる十二月二十一日、記念館地下企画展示室 映像ホールで講演会を開催しました。松本清張生誕90周年を記念したもので、講師には、「昭和史発掘」、「霧の会議」、絶筆の「江戸綺談」 甲州霊巖堂二等の挿絵を担当した、風間完先生をお招きしました。約百人の聴衆を前に、「天保凶録」で清張とコンビを組んだ際の思い出話などを語られました。



松本清張の初めての海外旅行体験は一九六四(昭和三九)年、五十五歳の時でした。コペンハーゲン、アムステルダム、パリ、ロンドン、ジュネーブ、ローマ、カイロ、ベイルートと、八つもの都市を歴訪した清張。その行動力には実に驚かされま



右が1964年発行のもの、サインは「K. Matsumoto」、左が1976年発行のもの、サインは「S. Matsumoto」。

「スをゆく」として掲載され、後に「はじめてのヨーロッパ」として「作家の手帖」に収録されています。

このヨーロッパ旅行を皮切りに清張はその後、年平均二ヶ国もの諸外国を訪れることになりました。そのほとんどが取材のためで、「アムステルダム運河殺人事件」以外にも、「聖獣配列」「霧の会議」「詩城の旅人」「草の径」などに結実しました。時には、「世界推理作家会議」に出席するためフランスへ、ベトナムから招待を受け視察に、また文藝春秋主催の「ヨーロッパ文化講演会」講師として海外に赴いたこともありました。

現在記念館に展示している清張のパスポートは一九七八年の発行で、名前の下にあるサインが「S. Matsumoto」となっています。しかし一九六八年発行のパスポートには「K. Matsumoto」とあります。後年サインに「S」、つまり本名の「きよはる」ではなく筆名の「せいちょう」を使っているのです。ここに、晩年グローバルな作品に多く取り組み、海外の要人や著名人たちと接してきた作家の盛名が表れているような気がします。

初めは慣れない海外で忘れ物をして、リトランクを焼いたりした清張ですが、八十一歳まで異国の空を飛び回り続けました。その旅の記録は、亡くなるまで知識欲の旺盛だった作家、松本清張の姿を生きたと物語るています。

(学芸担当 林 暁子)

きよしとハルコの探検! 清張記念館

“B1F 読書室”の巻

きよし 展示を見てたら清張の作品が読みたくなったな。

ハルコ そんな時は読書室よ。全集が置いてあるから、大抵の作品が読めるわ。非売品の「松本清張写真集」も置いてあるのよ。

きよし 写真集? アイドルみたいだね。

ハルコ 別に本人が写ってるわけじゃないのよ。この写真集は、清張が海外取材のたびに撮っていた写真を、没後、家族が本にまとめたものなの。

きよし うーん。この写真の出来は取材の域を越えてるね。



松本清張写真集▶



清張が寄贈したソファー▶

ハルコ あ! このソファー、清張が日本推理作家協会に寄贈していたものですよ。いろんな作家も座ったソファーで清張の本が読めるなんて感激!

きよし じゃあ、これに座ったら清張みたいに芥川賞が取れるかも♥。おっ、結構座り心地がいいな。と思ったら急に眠気が。うーん。ムニャムニャ…。

ハルコ 絶対ムリね……。

清張も座ったソファーは、唯一触れることができる展示品。そこで清張作品を好きなだけ読める幸せ。「松本清張賞」受賞作も置いています。情報ライブラリで検索するとお便利、読書室はB1F、階段を下りてすぐです。

1 常設展示室1 【991票】

- 1位** ○入ってすぐの刊行された全書籍は圧巻でした。(40代男性)
 ○1900年代の日本の歴史を振り返るような展示で、大変興味深かった。(40代男性)
 ○歴史の下に本人が感じた事や意見等が入っていて興味深く楽しめました。(30代女性)
 ○権威や学説ではない、疑ってみる姿勢が大事ということに感銘をうけました。(50代女性)

2 常設展示室2 【858票】

- 2位** ○復元家屋の書庫に圧倒された。情報収集し、こなし、表現の充実という過程が良くわかった。(40代男性)
 ○表にはあらわれない水面下での作業の多さ、「見えない部分での努力」に驚きました。(50代女性)

3 推理劇場 【577票】

- 3位** ○清張の探求心(力)がよく分かる。(40代女性)
 ○ベルシャとあすかのつながりが理解できて良かった。(20代女性)

4 読書室 【448票】

- 4位** ○マニアックな品揃えでよかった。(20代男性)

5 映像ホール 【435票】

- 5位** ○(「わが道は霧の中」をみて)映像で紹介される松本清張宅に、館長さんの案内でカメラが入っていくところ、門を入り、階段を上って行かれる時のきしみの音、書齋、机の引き出しの中まで、見ていてまるで自分がその中にあるような気分になりました。今まで知らなかった作家活動においての苦しみなど、見ているうちに涙があふれてきました。どんな最高の映画より、本物のオリジナル映像「わが道は霧の中」は素晴らしいかったです。(50代女性)

その他の感想

- 見学者の中に意外に中年の男性が多いのに驚きました。このような展示施設はふつう女性が多いものですが、社会派作家だからでしょうか。(60代女性)
 答) そうなのです。50すぎの男性が多いのです。清張作品を最も読んでいるのもこの世代です。
 ○幼児の着替え(おむつetc...)のできるスペースが欲しい。(30代男性)
 答) 1階の身障者トイレ内にベビーシートを設置しました。

アンケート回答者Data



(集計期間 平成11年4月~平成12年1月)

ここが好き!

20万人目の入場者吉田さんは...



99年10月8日、記念すべき20万人目の入館者となった八幡西区吉田松さんは「再現家屋の書庫の本は、本屋さんにはないものもあって感心しました。読書室でゆっくりできて、落ち着いた雰囲気が好きです。」

このコーナーではテーマをもとに集められたアンケート結果を発表します。第2回テーマは、

「あなたの一番好きな清張作品は」

いきなりすごい直球を投げてしまいました。皆さんそれぞれの思い入れのある作品が必ずあるはず。理由も添えて、下記までお送り下さい。

アンケートは館内にも置いてあります。お答えいただいた方の中から5名様に記念館オリジナルグッズをさしあげます。

「みんなの広場」係まで

喫茶「石の館」

3月1日より「石の館庭園」がメニューに加わりました。お気軽に昼食をとられませんか。

石の館 TEL.093-583-8558

◆新メニュー紹介◆

「石の館庭園」(右写真)は、-halfサンド、アップルパイ、プチグラタン、アイスクリームに、コーヒー又は紅茶付きです。ちょっとずつ、たくさん楽しめとってもお得。是非お試しを。また玉露の葉肉だけを使った宇文字の甘みと香りを楽しめる「宇文字抹茶セット」も登場しました。桜の季節に、石畳の落ち着きの中、くつろぎのひとつときをお過ごしになりませんか。

-「石の館庭園」¥1,000
-「宇文字抹茶セット」¥750



お知らせ

映画上映

記念館では毎月、松本清張原作映画のビデオ上映をおこなっています。3月・4月の上映作品は次の通りです。

入場無料

3月

「風の視線」 1963年/松竹 モノクロ:105分
※松本清張出演作品

監督：川頭義郎
脚本：楠田芳子
出演：佐田啓二・新珠三千代・岩下志麻・松本清張

20日(祝)～26日(日)

①11:00～ ②14:00～

※うち、21日(火)は市民文芸講座のため上映はありません
※上の日程以外の日も可能な限り上映を行います。

4月

「黒の奔流」 1972年/松竹 カラー:90分
(原題:「種族同盟」)

監督：渡邊祐介
脚本：国弘威雄・渡邊祐介
出演：山崎努・岡田茉莉子・松坂慶子

16日(日)～23日(日)

①11:00～ ②14:00～

※上の日程以外の日も可能な限り上映を行います。

●詳しい内容については、館内にて予告チラシを配布します。またはホームページでご確認下さい。

市民文芸講座

現在開催中の「時間の習俗展」にちなみ、推理小説「時間の習俗」を各講師が独自の視点で読み解き、詳しい内容を解説します。

参加無料

日時:平成12年

日時	講座	講師
3月 7日(火)	「清張ミステリーとトリックの醍醐味」	安間隆次氏 (文芸評論家)
3月14日(火)	「旅心一時空を駆ける」	小林慎也氏 (梅光女学院大学教授)
3月21日(火)	「『時間の習俗』の時代」	赤塚正幸氏 (北九州大学教授)
3月28日(火)	「清張と俳句」	今村元市氏 (郷土史家)

毎週 午後2:00～3:30

場所:松本清張記念館 地下【映像ホール】



- ① 堺町公園 句碑
「花衣ぬぐや纏はる紐いろいろ」
- ② 円通寺境内 句碑
「三山の高嶺つたひや紅葉狩」
「無愛華の本蔭はいつこ仏生会」

花衣ぬぐや纏はる紐いろいろの句に代表される天才的俳人、杉田久女は、明治二十三年鹿兒島県に生まれ、明治四十二年、旧制小倉中学校(現小倉高校)の美術教師となった夫の杉田字内と共に小倉に移り住んだ。兄の手ほどきで俳句を始め、高濱虚子を生涯の師と仰ぎ、しばしば「ホトトギス」雑誌の巻頭を飾った。大正から昭和の始めという女性の社会的地位が未だ低い時代に、久女は俳句を心の拠りどころとしてその類い稀な才能を開花させたが、後に同人を除名されるなど、不遇のうちに昭和二十二年死去した。

久女が小倉にやって来た明治四十二年、松本清張もまたこの地に生を受けた。偶然同じ年に小倉に現れたこの二人の天才はお互いに顔を合わせることとは無かった。しかし、もと関心を寄せていた清張は、俳句にかけた久女の心情に深い共感を寄せ、昭和二十八年、芥川賞受賞後第3作として「文藝春秋」八月号に、久女をモデルにした「菊枕」を発表した。「清艶高華」と評された久女の句を刻んだ碑が、小倉の堺町公園と円通寺境内に建っている。

(藤澤 隆文)

北九州文学マップ
近代女性俳句の先駆け——杉田久女

2000年3月18日～4月2日

小倉城クイズウォーク

2000

賞品は、ハワイ旅行 ペア1組、東京ディズニーランド ファミリー1組など

松本清張記念館のある小倉城エリアでクイズウォークがあります。3施設共通券の施設である「小倉城」「小倉城庭園」と当館の3施設をまわり、クイズに答えてスタンプを押せば豪華賞品が当たる、というものです。ぜひ、あなたも、チャレンジしませんか?

詳しくは、北九州市観光課 ☎582-2054
または当館へ

松本清張記念館 友の会のお知らせ

記念館では、清張作品の愛好者の相互交流や、より清張作品に親しんでいただくため、友の会をつくりたいと思います。

ついでに、今春から会員の募集を開始する予定です。
以下の内容で検討を進めています。

事業内容(案)

1. 講演会、文学散歩、文学館巡り、文芸講座の開催、会報の発行等
2. 年会費は、3,000円程度
3. 特典は、常設展、企画展へのご案内、館の各種行事の案内、館報の送付、オリジナルグッズ贈呈など

発足は、平成12年夏頃をめざしています。詳しくは、記念館まで。

資料提供のお願い

松本清張ゆかりの品をお持ちの方は
記念館までお知らせ下さい。

松本清張研究会 第1回研究発表会

平成11年11月27日、立教大学において、「松本清張研究会」の第1回研究発表会が開かれました。

全国から、会員のほか一般参加も含め約九十人の参加があり、会場は熱気に溢れました。



代表理事 平岡敏夫先生



熱気あふれる会場

当館館長藤井康栄の講演(演題「松本清張という人」)の後、山口大学人文学部助教授 石川巧先生による、研究発表(「松本清張の出發 - 「歴史小説」の方法と論理」)が行われました。参加者との活発な討議もあり、予定の閉会時刻を大幅に繰り下げるほど盛会でした。

(学芸担当 中川 里志)

研究誌『松本清張研究』 創刊号発行のお知らせ

平成12年4月中旬、研究誌『松本清張研究』創刊号を発行する予定です。記念館で販売しますが、電話・ファックスでの注文も受け付けます。主な内容(予定)は以下のとおりです。

編集 後記

文芸講座や友の会など、みなさんとともに活動する記念館の事業が始まろうとしています。今まで同様、どうぞよろしくお願ひします。ご意見、ご感想をお待ちしています。

(大西 政寛)

● 森嶋外と松本清張…………… 平岡敏夫

特集・清張と鷗外

- 開館一周年記念シンポジウム「松本清張にとって鷗外とは」
- 小倉郷土会と松本清張…………… 小林安司
- 流瀆へのまなざし—松本清張と森嶋外…………… 宗像和重

論文

- 「点と線」論序説…………… 天沢退二郎
- 歴史を推理する
—松本清張「二・二六事件」の回想—…………… 菅野昭正
- 「装飾評伝」の虚実…………… 花田俊典
- 「氷雨」—男と女/手練手管の玄人芸の終焉…………… 藤井淑禎

創刊準備号好評発売中



¥500

編集・発行

松本清張記念館

〒803-0813
北九州市小倉北区城内2番3号
TEL 093(582)2761
FAX 093(562)2303
http://www.kid.ne.jp/seicho
制作 (有)エディックス



イラスト:山藤 草二

- 開館時間 午前9:30~午後6:00(入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日~12月31日)
- 観覧料 一般/500円(400円) 中・高生/300円(240円)
小学生/200円(160円) ()は30人以上の団体
- アクセス J・R:小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分
バス:小倉北警察署前/NHK前下車
車:北九州市都市高速、大手町ランプより5分

